

# 共生

奈良県生協連

2022年1月

NO.123



第31回奈良県生協大会  
災害復興の取り組みに  
学び、防災・減災に向け  
て私たちにできること



若者応援プロジェクト奈良  
奈良佐保短期大学フードパントリー

## もくじ

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 新年のごあいさつ 森宏之奈良県生協連会長… 1 | カーボンニュートラルをめざす            |
| 新年のごあいさつ 荒井正吾奈良県知事… 2   | オンラインセミナー…………… 7          |
| 第31回奈良県生協大会…………… 3・4    | 関西消費者団体連絡懇談会 他…………… 8     |
| 2021年度 第2回生協・行政協議会 …… 5 | おじゃましました～医療福祉生協～… 9       |
| 若者応援プロジェクト奈良…………… 6     | 継承する会のシンポジウム・オンライン証言会… 10 |

## 新年のごあいさつ

**2022年、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の諸課題を  
今後の県連活動指針として推進し、たすけあい協同の心を  
広げながら、地域や行政との連携を強化する年に**

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之



奈良県生協連の会員及び組合員のみなさん、新年おめでとうございます。昨年は、奈良県生協連の様々な活動に対し、大きなご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

世界ではいまだに不平等や差別がなくなっており、逆に世界中に格差と貧困が広がっており、「金だけ」「今だけ」「自分だけ」がよかったら、という風潮が広がっています。今こそ、共に生きる「共生とたすけあい協同の価値」を礎にした協同組合の運動を強めることは重要です。この間、世界中で協同組合が広がり、10億人を超える組合員が登録され、国々でそれぞれの地域での社会ニーズに応じて約300兆円もの事業を生み出しています。こうした実績がみとめられ、国連教育科学文化機関(ユネスコ)が協同組合を無形文化遺産に登録されていることは誠に喜ばしく、誇らしい気持ちになります。日本では生活協同組合も他の協同組合との連携のもとで、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の諸課題を推進しています。

奈良県生協連の現会員は、地域生協3、大学生協4、労済生協1、医療福祉生協1、合計9つの生活協同組合となりますが、30年ほどの取り組みの中で組合員総数は40万人を突破するにいたりました。これまで奈良県生協連としては、食とくらし、平和、環境とエネルギー、福祉、防災の5つの課題にかかわってきました。今後の活動分野としては更に

子どもや高齢者への支援、環境保全やそのための再生可能エネルギー普及、地域での就業創出・仕事づくりなど多様な社会問題の解決にかかわっていきたいと思います。そして、奈良県生協連活動指針としてSDGsの諸課題に対応した取り組みにチャレンジしていくことが大切だと考えます。奈良県においても、「誰一人取り残さない」安心して暮らせる地域づくりをすすめることが重要との認識から、組合員と消費者の願いを土台に、安心なくらしと住みよい地域づくりの活動をすすめる、県行政のご指導をいただきながら、よりよき連携のもとに活動し、その役割を発揮していきたく存じます。

今年2022年、農業協同組合、森林組合、労働者協同組合など協同組合同士の交流連携を基礎にしつつ、県行政並びに市町村の生活担当分野の皆様、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各分野の団体の皆様とのさらなる連携強化を模索しながら、SDGsの諸課題に真摯に取り組んでいきたいと考えます。

今年の干支は壬寅(みずのえとら)です。協同組合原則に則って、アイデンティティを大切にし、チャレンジ精神をもって取り組みを前進させ「地域共生コミュニティづくり」を一段とステップアップする年にしましょう。協同組合の活動を奈良県のすみずみにひろげてまいりましょう。

## 新年のごあいさつ

奈良県生活協同組合連合会並びに会員生協の皆さまに、  
令和4年の初春のお慶びを申し上げます



奈良県知事 荒井 正吾

昨年は、新型コロナウイルス感染症の波が世界中、日本中を襲い、奈良県民の皆さまの日常生活にも大きな影響を与えました。新たな年は、新型コロナウイルス感染症の影響が薄まり、皆さまの健全な日常生活が取り戻せることを願うばかりです。

### 新型コロナウイルス感染症から 県民の命と健康を守る

新型コロナウイルスに感染された場合であっても、早期に発見し、必要な治療につなげることで、重症化を防ぐことは十分可能です。奈良県ではこれまで、重症になられた方は全て重症対応病床で治療することができましたし、感染者の急激な増加を避けることができました。また、自宅でやむなく療養される場合でも、十分な経過観察、連絡、相談の体制をとることができました。

昨年の6月以降は、ワクチン接種が進み、11月下旬には、ワクチン接種を希望される全ての方に、2回目のワクチン接種を行うことができ、新規感染者の増加を防ぐことができました。

感染者への医療を心を込めて提供して下さった県内の医療従事者の方々、ワクチン接種を推進していただいた市町村、地区医師会をはじめとした関係者の方々に、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

### 新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら 社会経済活動を取り戻す

奈良県の感染者数は、大阪の感染者のほぼ10分の1で同期化することが分かってきています。奈良県の県外就業率は約3割で、そのうち8割

以上が大阪へ通勤されています。通勤を止めるわけにはいきませんので、通勤には最大限のうつらない配慮が必要です。また、うつらない配慮とともに、家族や友人にうつさない配慮が必要です。

適切な配慮をすれば、感染予防に効果があることも分かってきました。マスクの着用、部屋の換気、手指の消毒を心掛ければ、感染リスクを相当下げられます。「ワクチン接種で安心飲食キャンペーン」、「いまなら。キャンペーン」、「Go to Eatの再開」も12月1日から実施しました。感染リスクを十分下げて、日常の社会経済活動を取り戻していけたらと思います。

### 奈良の未来発展に向けて

コロナ禍でも、奈良県の発展に寄与する大きなプロジェクトが動き出しています。来年度予算に盛り込みたいと考えている楽しい案件が幾つもあります。

南海トラフ地震等大規模災害に対応するため、五條市に建設予定の2000m級滑走路を持つ大規模広域防災拠点の整備。大和平野中央部における県立大学工学系第2学部の設置と国民スポーツ大会用のスポーツ施設の整備を軸としたスーパーシティ構想の実施。中央卸売市場の市場部門の全面建て替えと食を楽しみ憩える空間づくり。JR関西本線高架化と新駅設置事業、京奈和自動車道の建設推進、平城宮跡歴史公園の整備、近鉄大和西大寺駅の高架化と平城宮跡内の線路移設など、楽しい事業が多くあります。

奈良県がもっと良くなる初夢を見ながら、貴連合会並びに会員生協の皆さまにも良い初夢がずっと届きますようにとお祈り申し上げます。本年もよろしく願いいたします。

## 第31回 奈良県生協大会を開催しました

# 「災害復興の取り組みに学び、防災・減災に向けて私たちにできること」



黙とうを捧げました

10月9日、奈良県コンベンションセンターにおいて、災害復興と防災・減災をテーマに第31回奈良県生協大会を開催しました(後援:奈良県・奈良市)。紀伊半島大水害から10年が経過し、十津川村の復旧・復興に取り組まれた更谷慈禧氏(前十津川村村長)による講演と県内の防災・減災について学び、各自の防災について振り返る機会としました。

生協関係者の他に自治体行政、地域諸団体から多数の参加があり、あわせて120名の参加者(会場67名、オンライン53名)が十津川村の復旧・復興と地域づくりを学び、県内の実践事例を共有しました。

開会に先立ち司会の吉田由香理事から紀伊半島大水害で被害に遭われた方々のご冥福を祈り黙とうを捧げました。

森宏之生協連会長から「新型コロナウイルスの感染拡大で不平等や貧困が広がっており、協同と助け合いの価値が問われています。復興と防災の取り組みから学び、地域社会とのつながりを大切にしてSDGsの課題を連帯して進めます」と挨拶がありました。



森 宏之会長



水谷 勝則次長



司会 吉田 由香理事

ご来賓の水谷勝則奈良県文化・教育・暮らし創造部次長から「安心して暮らせる地域社会の実現に向けて皆様とともに連携協力を取り組んでいきたい」と生協連への期待の言葉をいただきました。

## 基調講演 紀伊半島大水害から10年 ～復旧・復興を振り返る～

更谷さんから冒頭に復興の支援に対してお礼の言葉が述べられました。

2011年9月、台風12号は和歌山県・三重県・奈良県などに甚大な被害をもたらしました。十津川村では、大規模な山崩れが75カ所、発電所の大破、主要国道の落橋、180カ所の通行止めとライフラインが寸断され、200の集落が孤立するという事態になりました。役場職員の6割しか出勤できずそのうち3割は消防団で出勤と圧倒的なマンパワー不足、また集落と連絡が取れず情報不足に陥りました。

復旧・復興から安心して住める集落づくりをめざして以下のことを学びました。



更谷 慈禧氏(前十津川村村長)

### 大水害で学んだこと① 「山を守ること」

村の96%が森林。その山をきちんと守っていたら、命やライフラインを守ることができ、地域環境を守ることができる。それが我々の使命と再確認し、林業の推進に取り組んでいます。

### 大水害で学んだこと② 「助け合い、支えあうこと」

自分達の身を自分達で守るためには、日頃の防災・避難訓練が絶対必要です。孤立した集落では、住民共働で、道路崩壊箇所仮橋・歩道を設置しました。集落への道が開通し訪問した時は、村民から逆に励まされました。

### 大水害で学んだこと③ 「自然との共生」

今後も災害は必ず起きる(南海トラフ巨大地震など)。点在する集落の暮らしを守るために、防災体制を見直し、広大な村ならではの防災体制を考えました。高齢者の「最後まで村で暮らしたい」という願いの実現と安心・安全な拠点づくりを展開しています。過疎化・高齢化が進み、村が消えていく危機感がある中、これまでのコミュニティを継承しながら移住者を増やしていくことも重要です。

これからは地方の時代の到来です。人と人がつながり、人と自然のかかわりが大切ではないかと問いかけています。人と自然が共生できる社会づくりを進めていくことが大切です。

## リレー報告

防災・減災に関わる取り組みをされている3団体から  
紀伊半島大水害での取り組みや実践事例を報告していただきました

### 報告① 奈良県社協総合ボランティアセンターの取り組み

近年の災害支援は、新型コロナウイルス感染予防のため、今までのように県外からの支援は望めず、県内で様々な団体が協働して復旧・復興に向けた災害支援が行われています。奈良県社協総合ボランティアセンターは、全国組織とのつながりとして全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)と連携し、研修会を開催しています。また、県内で連携・協働できる場づくりとして「奈良県防災プラットフォーム連絡会」に23団体が加わり、被災地からの要請に基づき、ボランティアな領域で対応可能な災害支援及び復興支援活動を行うことや団体登録を呼びかけています。

最後に奈良県社協が災害支援で大切にしていることは「被災者中心」「地元主体」「協働」で、災害の問題を「他人事」ではなく「我がごと」として取り組んでいます。



田中 和博 主査



岡本 充規 担当課長

### 報告② ならコープの防災・減災・復興支援の取り組み

紀伊半島大水害時に天川村、黒滝村、野迫川村、五條市大塔支所(旧大塔村役場)へ救援物資を届けました。職員ボランティアを募り、組合員への「お見舞いセット」800袋をお届けしました。天川村の炊き出しに役職員17人が支援に入り、台風12号災害救援募金にも取り組みました。ならコープのBCP(事業継続計画)に基づく災害対策は、電気自動車52台の配置、自家発電システム、インタンクなどを設置し、生協として災害時に社会的役割を果たすために、万一の場合にいつでも行動できるように家庭内での防災力の向上を目指しています。

### 報告③ 労働者共済生活協同組合の取り組み

安心のセーフティネット2本柱「もしもとその前後」「自助・共助・公助」を基に5つのポイントを紹介します。HPの「住まいの地盤診断サービス」で地盤の強さや、地震・液状化・浸水の可能性などを住所から検索できます。また、防災豆知識「地震・津波・火山噴火編」「火災・風水害編」「避難生活・天気予報・奈良の防災編」を基に、各自の災害への備えとして活用してください。



後藤 唯治 部長  
(こくみん共済coop奈良推進本部)



#### 参加者アンケート

紀伊半島大水害から10年。もう10年、まだ10年。どちらも言えるかもしれませんが、記憶は徐々に薄れてきているのが実情ですが、当時の災害のひどさ、大変さ、恐ろしさを思い出しました。奈良県は災害が少ないといわれていますが今後30年で大地震が起こる確率は高い県です。また、台風などの水害の懸念は毎年あります。防災、減災に向けて基本的なこと(備えや行動)、プライベート業務、両方において改めて考えていきます。

今日は改めて災害に備えることの重要性を感じました。更谷さんのお話には胸が苦しくなる程、大変さが伝わってきました。そして、山を守ること、自助・共助の深い意味を忘れないようにしたいです。また近年のボランティアセンターや支援者の減少にはコロナ禍の影響も直に響いているのが気になりました。コロナ禍でも関係なく、災害は起こりうるので恐怖です。地域の連携、本当に大切だと感じました。

突然の災害には、備えが大切とよくわかりました。その中で自分たちの命を守ることをまず一番に考えないといけない。防災グッズの準備などの備えもしていますが、本番で役立つのか不安です。ご近所どうしのささえあい、助け合いができる地域を作っておきたいと思いました。「協働」もすごく安心感があります。

# 2021年度 第2回生協・行政協議会を開催しました

11月18日、奈良県コンベンションセンターにおいて2021年度第2回生協・行政協議会を開催しました。

奈良県消費・生活安全課から常田 淳課長をはじめ3名の出席があり、奈良県生協連理事・監事と意見交換を行ないました。奈良県生協連は、10月に「2022年度奈良県行政に向けての要望書」を提出しましたが、その要望項目に対して各担当課からそれぞれいい回答をいただきました。

特に、新型コロナウイルス関連の対応、生活困窮者支援、消費者行政などについて意見交換しました。



## ● 奈良県生協連「2022年度奈良県行政に向けての要望書」のポイント ●

### 1. 安心してらせる地域づくりの施策について

- (1) 市町村への「こどもの貧困対策法」関連の支援及び生活困窮者への支援
- (2) 県民の医療と健康を守るために
  - ①保健所の体制確保及び各市町村と連携したコロナ対応の強化
  - ②ワクチンの確保と市町村への適正な配布
  - ③自宅療養者の窮状の把握と支援の遅延防止  
市町村からの問合せに個人情報保護の観点で県から市町村に必要な情報提供が遅れないこと
  - ④特定健診やがん検診の受診率向上、各市町村の推進に集中できる体制づくり
  - ⑤地域医療の推進に向けて地域包括ケアシステムと在宅医療の充実
- (3) 困窮している学生への支援～学生生活や教育を受ける環境格差への支援と配慮

### 2. 食の安全安心の施策について

- (1) 「なら食の安全・安心確保の推進基本方針」推進への予算措置と人的体制
- (2) 食品表示の監視指導について県政関連部局間の連携を強めた監視指導
- (3) 食品ロス削減の取り組みについて
  - ①市町村の「市町村食品ロス削減推進計画」策定と地域住民が食品ロスの実態を把握し、県民が意識して取り組めるような施策
  - ②「食品ロス削減推進フォーラム」やセミナー等で情報を紹介・共有し、県民の食品ロス削減に向けた意識向上を図ること
- (4) 奈良県の食料自給率14%の向上

### 3. 消費者行政の推進について

- (1) 特定非営利活動法人なら消費者ねっとの適格消費者団体認定に向けた継続的支援
  - ①なら消費者ねっとへの個人情報保護に支障のない範囲での情報提供
  - ②「シンポジウムの共催」「県内消費者トラブルの状況に係る情報交換の機会」「団体主催の法律相談会の支援」などの検討
  - ③住民のくらしの安心につながる消費生活相談員の体制維持と充実に向けた支援
- (2) 消費者安全確保地域協議会の設置(県内未設置)や高齢者見守りネットワーク(消費者行政部局と福祉部局との連携)による高齢者等の暮らしの不安解決
- (3) 民法改正による成年年齢引き下げに伴う若者被害の防止と情報発信と相談しやすい体制づくり

### 4. 環境・エネルギー施策について

奈良県産材を活用した脱炭素型社会づくりへ  
改質リグニン(杉資源の有効活用)の研究調査、スマート林業の推進、中山間地域の活性化、なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議との連携など

# 若者応援プロジェクト奈良

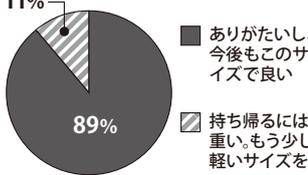


コロナ禍で困っている学生を支援したいと始まったこのプロジェクトも10月11日奈良女子大学の留学生へのお米の支援、10月29日天理大学でフードパントリーと続き、新たなつながりが生まれています。

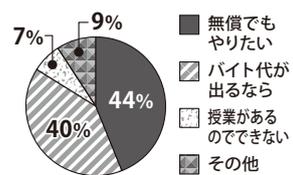
## 第3回目(10月11日) 留学生への食料支援

「留学生も生活に困窮しているのでは?」と以前から声があり、このプロジェクトに参加いただいている奈良女子大生協から奈良女子大国際支援センターにつながり、奈良女子大の留学生全員(約150名)への食品無料配布の情報配信が可能となりました。フードバンク奈良から米5kg 130袋を支援いただき留学生53人、残りを日本人学生に配布することができました。

お米5kgという単位について (55名回答)



1回だけでも搬入や仕分け作業を手伝えないか(55名回答)



・自分たちも支援活動に参加したいと考えてくれていることがわかりました。

## 第5回目(11月29日) 奈良佐保短期大学食料支援

奈良佐保短期大学留学生との関係が深い協同福祉会の方につないでいただき、大学の事務局長、学生・キャリア支援センターの方にお会いし学費補助など学生支援を続けてこられたとお聞きしました。今回は奈良市からお米の提供と合わせて食料支援を同日にしてはどうかと提案させていただき11月29日に無料配布することになりました。

学生が安心して食料支援が受けられるようさらに他の大学への働きかけも進めています。

## 第4回目(10月29日) 天理大学学生への食料支援

天理大学の先生がこのプロジェクトに加わってくれたことで、学生支援課につないでいただくことができました。

食料支援は大学のHPを通じて100名予約募集したところ、3時間で定員に達したため106名で締め切りました。フードバンク奈良、ならこープ、労済生協、近畿ろうきん、その他市民団体などから寄贈された食品や雑貨品、フードバンク奈良から寄付されたお米、および「赤い羽根共同募金会」の助成金で購入した食品120名分を準備しました。当日天理大学学生自治会の学生4名もスタッフに加わり、フードバンク奈良、奈良女子大生協、生活クラブ生協、ならこープ、医療福祉生協、奈良県生協連など多くの関係者が食品の仕分けや配布にかかりました。

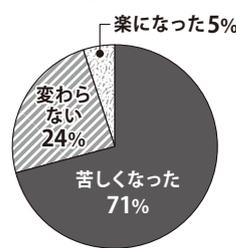
準備した雑貨品の中でもフライパンや鍋は「なかなか買い替えられなかったのととてもうれしい」とすぐなくなりました。申し込んで当日取りに来られなかった分は大学側で渡していただくことになり、余分に準備した食糧は留学生などHPから申し込みができていなかった学生に当日配布することができました。



一人分の配布食品とお米5kg

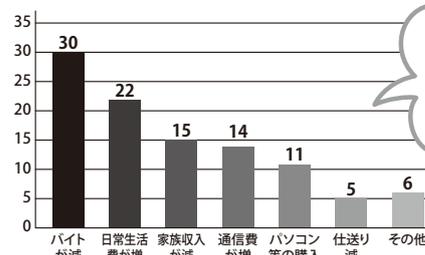


コロナ禍で生活は?



食品配布の様子

苦しくなった理由は?(複数回答)



アルバイト収入が減り、リモート授業が増えたため、パソコン購入や通信費で出費が増え苦しくなっている

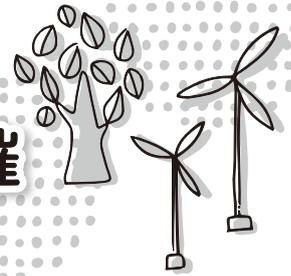
### 若者応援プロジェクト奈良アンケートから

●コロナでバイトもなくなり、かといって親に仕送り増やしても言えなくてバイトあるから大丈夫と言っていたのですごくつらかったです。今回の食料応援があると聞いた時も、本当に無料でもらえるのかな?とか思って迷いました。でも係員の人も親切で声をかけていただき、しんどいやろけどがんばりやと言ってくださいました。しんどい時はシンドイと言ってもいいんやと思ってうれしくなりました。

●様々なものがもらえるなんて、嬉しかったです。コロナウィルスの影響で怖くなって、心配の生活がありました。しかし、ご支援のおかげで、幸せに生活が上手くできていると思います。

コロナ禍の気候変動対策に取り組むNPO等とともにカーボンニュートラルを目指すオンラインセミナー

# 「脱炭素地域づくりに向けた 国と地域とNPOの取り組み」開催



## 近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度

10月18日、NPO法人奈良ストップ温暖化の会(NASO)、(一社)地域未来エネルギー奈良、近畿労働金庫、奈良県生協連の共催で「脱炭素地域づくりに向けた国と地域とNPOの取り組み」が開催され、自治体職員や奈良ストップ温暖化推進員やNPOなど51名がオンラインで参加しました。このセミナーは、2012年から国内外の再生可能エネルギーの動向や県のエネルギービジョンの進捗などの共有化を図ってきた地域未来エネルギー奈良の取り組みの一環で、2021年度はNASOが中心になってオンラインで近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度の支援を受けて開催されました。ゼロカーボンシティ宣言した県市の報告を受け、2030年温室効果ガス46%削減への道筋をみんなで考える機会としました。

環境省近畿地方事務所の福嶋氏から脱炭素社会の実現に向けて、環境省の地域脱炭素ロードマップの説明と令和四年度自治体向けの主要事業と事例の解説をしていただきました。奈良県環境政策課城山氏から奈良県環境総合計画と策定中の奈良県第4次エネルギービジョンについて、また、ゼロカーボンシティ宣言した生駒市

SDGs推進課の木口氏から「いこま市民パワー」の取り組みをご紹介いただきました。チャットにより、国や県への質問、メガソーラーに関する意見などが活発に出されました。参加者との意見交換では、NPO法人サークルおてんとさんの市民共同発電所の取り組みや再エネ協同基金の取り組みを紹介していただきました。オンラインでの制約もありましたが、アンケートでは国や県や自治体の取り組みがわかってよかったとの感想をいただきました。次回は1月25日にオンラインで開催する予定です。

## 地球環境保全活動団体交流会・意見交換会

### 匠の環、それから

11月26日、奈良県文化会館小ホールにて、環境保全活動団体の交流会が奈良県地球温暖化防止活動推進センター主催で開催され、奈良県下の25団体約100名が参加しました。テーマは「カーボンニュートラル！ 私たちに何ができるか」。

センター長の当麻氏より「気候変動最新動向」の話題提供の後、5グループに分かれて活発な意見交換が行われました。



「匠の環、それから」会場の様子

## 「リオからSDGsへ ～水を通して～」

講師：尾田栄章氏(旧建設省河川局長)

2022年1月30日(日) 14:00~16:30

奈良県文化会館小ホールにて講演会を開催します。

主催：NPO法人サークルおてんとさん

共催：奈良県生協連



## 大阪ガス定期懇談会

11月11日大阪ガス本社ビルで関西消費者団体連絡懇談会と大阪ガスとの定期懇談会があり、大阪ガス側は11名、消費者側は10名(内1名はオンライン)出席しました。大阪ガスの2050年に向けたカーボンニュートラルビジョンの説明を受け、消費者との意見交換が行われました。排出されてしまった二酸化炭素と水素を合成させて合成メタンを作り、将来的にはメタンを消費者に送る計画を進めて行くと説明されました。どこで原料を調達し、どこで再エネ電気を作るのかは国内ではコストの問題もあり、ハードルの高い目標と感じました。それでもカーボンニュートラルに向けて動き出しています。



## 大阪地区消費者対話集会 主催：日本化学工業協会RC推進部

11月24日、日本化学工業協会RC推進部主催の大阪地区消費者対話集会が、昨年引き続きオンラインで開催され、全大阪消費者団体連絡会から消費者として10名(全大阪消団連2名、コンシューマーズ京都5名、コープきんき1名、奈良県生協連2名)、日本化学工業協会から13名が出席しました。

プラスチック類の資源循環の現状について、プラスチック循環利用協会の富田氏から報告があり、日本製紙の内村氏から「紙化とは何か～紙製素材の技術動向とその課題～」について報告がありました。プラスチック製品の原料として再生するマテリアルリサイクル、化学原料として再生するケミカルリサイクル、エネルギー回収(サーマルリサイクル)の3つの手法の現状が報告されました。また、プラスチック代替素材として注目される「紙化」については、素材の特徴や技術開発動向や課題など目新しい情報も多く報告されました。紙化により紙100パーセントではない「紙のような容器包装」が増えると、リサイクル現場は混乱が予測されます。しかし、脱プラスチックに向けて業界は動き出していることが分かりました。



## 関西電力定期懇談会

関西電力本社ビルで関西消費者団体連絡懇談会との定期懇談会があり、生協連から2名が出席しました。関西電力株式会社から14名、関西消費者団体連絡懇談会から11名(内1名はWeb)が出席しました。経営概況、業務改善計画の進捗、コロナ禍への対応、ゼロカーボンビジョン2050について報告があり、意見交換しました。ゼロカーボンビジョン2050は、発電事業をはじめとする事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出を全体としてゼロを目指しています。再エネの最大限導入・主力電源化、それを可能にする送配電系統の高度化、原子エネルギーの安全最優先を前提とした最大限活用、火力ゼロカーボン化など関西電力の方針の説明を受けました。水素活用はこれからの課題であること、使用済核燃料の処分策が具体化されないまま原子力発電を継続することに対して消費者として安全性確保のために廃止すべきという意見が出されました。

# おじゃましました // ～奈良県医療福祉生協の巻～

12月6日、奈良県医療福祉生協の生協ホールで、奈良県医療福祉生協「くらしの懇談会」（理事5名で構成）の学習会に招かれ、「若者応援プロジェクト奈良・フードバンクの取り組みから見えるコロナ禍の現状」をテーマにお話をしてきました。10名の方が参加されました。



学習会の様子

医療福祉生協は、全国40都府県に100以上あり、地域の人々がそれぞれ健康、医療、くらしにかかわる問題を持ち寄り、医療の専門家（医師・看護師など）と協力して、病院、診療所、老人保健施設、訪問看護ステーション、通所リハビリ、通所介護、訪問介護、居宅介護支援、高齢者住宅等を運営しています。組合員は医療や介護が必要な時に施設を利用するとともに、健康づくりや助け合いを通じて日々健康づくりに取り組んでいます。（奈良県医療福祉生協HPより）

奈良県医療福祉生協は、2012年3月31日に設立。組合員数6,047人（2021年3月31日）。誰もが等しく、住み慣れた地域ですこやかに暮らし続けることを目指し、健康チェックや健康講座・健康体操など様々な活動をされています。奈良県医療福祉生協の「くらしの懇談会」では、子どもたちの後ろにいる親世代もすこやかにくらししてほしいと思い、このテーマを考えられたそうです。

## 「若者応援プロジェクト奈良」

奈良県生協連が2021年5月から会員生協とフードバンク奈良に呼びかけ、食品無料配布を通じて大学生を応援しようという目的でできました。

奈良県医療福祉生協では10月29日の天理大学での食品配布の時から理事さんが参加し、学生支援が必要な大学も紹介してください、11月29日の奈良佐保短期大学での食品配布につながりました。

フードバンク奈良や若者応援プロジェクト奈良ができた経緯、今まで取り組んできたこと、大学生たちの感謝の声や悩みを打ち明ける声などをアンケートからご紹介しました。普通の学生たちの生活実態が思いのほか深刻なことで、そして困っていることを言い出せない状況であることをお話ししました。

「改めて、学生さんたちの置かれた状況、母子家庭の状況などを確認することができました。私たちにできることを考えてみようという気持ちになりました。現状を知らないなら、それを伝えるに行く！行政につながりを作れないか探してみる！生協の仲間に伝えて協力してもらおう！いろいろな思いが湧いてきました。」「一人ではできないことも、いろいろなネットワークやサポートを利用して実現できるのだということ、やる気があって行動に移すことが社会を変えていくことにつながるということに気付いた」との感想もいただきました。

若者たちの困っている状況を理解する大人たちが少しでも増え、「助けて!」といえる社会に、そして生活費を心配せずに勉学にいそしめる学生生活を送れるような社会になることを願っています。



大学で配布した一人分の食品  
(赤い羽根共同募金の交付金事業)

## ノーモア・ヒバクシャ 記憶遺産を継承する会 創立10周年企画

# “ノーモア・ヒバクシャ” 継承拠点を各地に

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、2021年12月に、設立10周年を迎えました。

この間、被爆者の歩みと被爆者運動の足跡にかかわる資料・記録を収集・保存、活用・発信する活動の拠点「継承センター」を早急に作ることを目指すとともに、その資料を活かした学習懇談会の開催や研究活動の支援をしてきました。

現在、ヒバクシャの高齢化が進み各地の会の活動を維持できなくなる状況も生まれています。それぞれの地元で被爆者の残してきた証言や運動資料に触れ、その想いや活動を身近に受けとめることのできる継承の拠点づくりが大切になっています。継承する会と日本被団協が主催し、10周年企画シリーズの〈その1〉として、すでに取り組みされている各地の動きをオンラインでつなぎ、継承活動の現状と可能性・課題について、交流する会が2021年12月11日にオンラインで開催され、約60名が参加しました。以下の4つの地区から報告がありました。



**【北海道】** 1980年代に多くの募金を集め「ノーモア・ヒバクシャ会館」を設立（一般社団法人北海道被爆者協会）。「2世プラスの会」を発足させ、絵本発行などの活動を進めている。

**【石川】** 友の会は来年4月に閉じることになったが、一緒に取り組んできた「平和サークルむぎわらぼうしの会」「平和の子ら委員会」などにより活動を継続していく。

**【岐阜】** ヒバクシャ国際署名推進委員会を、「被爆者の願いを継承する会」として、被団協運動に学んで若い人たちが受け継ぐ運動が始まっている。

奈良は、①ならコープ創立からの平和活動 ②奈良県生協連創立と平和活動の広がり ③県内被爆者の手記と活動資料を継承する活動 ④ならコープ平和ライブラリーの開設・資料保存と学び・交流・つながりの拠点づくり ⑤入谷方直氏が、継承に関する想い・手記や資料継承の意義について報告しました。

## 「被爆手帳を破って、ぼくの闘いは始まった」

### — 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト —

2021年12月19日(日) 証言会13:30～15:30 交流会15:35～16:30

オンラインとならコープふれあいセンター六条

主催：ならコープ、奈良県生協連、ならコープ平和の会、  
ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト



第1部は、奈良市在住の秋山勝彦さんが「被爆手帳を破って、ぼくの闘いは始まった」のテーマで被爆体験とその後の歩みを話されました。第2部では、秋山さんのお話を聞いての質問に丁寧に答えていただきました。そのあと感想等を交流しました。オンラインと会場で50名が参加しました。

秋山さんは、5歳8か月の時、母と小学2年の姉、生後8か月の弟と、広島市の爆心地1.5キロの自宅で被爆。その時にはだしのまま逃げて、その時の傷で走れなくなり、小学校でいじめられました。故郷で起こったことが忘れることができずでしたが、被爆者手帳を破り捨てて、50年間被爆体験を話すことがありませんでした。でも心のどこかでは話したくてたまらなかったそうです。「故郷で起こったことは忘れない」「核兵器はなくさないといけない」「ドイツも締約国会議にオブザーバー参加をする。唯一の戦争被爆国の日本は核兵器禁止条約に賛成すべきだ。」「これからも体験を話し続ける」と強調されていました。

参加者からは、「しっかりと継承することが私たちの役割だ」「核兵器禁止条約に参加するのは日本人として当たり前、そんな日本になるようにしていきたい」「教員として、秋山さんの想いをしっかり受け継いで、これから、戦争や平和について子どもたちに伝えたい」などの感想が寄せられました。

## 10月

- 9日(土) 第31回奈良県生協大会
- 13日(水) なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議視察
- 15日(金) 第2回近畿地区生協府県連協議会
- 17日(日) 第8回「奈良県のヒバクシャの声」編集委員会
- 19日(火) なら消費者ねっと理事会
- 29日(金) 若者応援プロジェクト奈良(天理大学フードパントリー)

## 11月

- 1日(月) なら消費者ねっと行政懇談会
- 5日(金) JCA全国交流集会

- 11日(木) 関西消費者団体連絡懇談会(大阪ガス)
- 12日(金)~13日(土) 宮崎県生協連理事研修
- 16日(火) 奈良県防災プラットフォーム定例会
- 18日(木) 第2回生協・行政協議会
- 18日(木) 第4回奈良県生協連理事会
- 24日(水) 大阪地区消費者対話集会(日本化学工業協会)
- 25日(木) 日本生協連地連運営委員会・県連活動推進会議
- 26日(金) なら消費者ねっと理事会
- 27日(土) 第9回「奈良県のヒバクシャの声」編集委員会
- 29日(月) 若者応援プロジェクト奈良(奈良佐保短期大学フードパントリー)
- 30日(火) 関西消費者団体連絡懇談会(関西電力)

## 12月

- 1日(水) ピースアクションをすすめる会
- 3日(金) 奈良県農村活性化推進委員会
- 6日(月) 若者応援プロジェクト奈良(奈良女子大・奈良教育大フードパントリー開始)
- 11日(土) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会設立10周年記念企画
- 14日(火) 若者応援プロジェクト奈良(天理大学フードパントリー)
- 15日(水) 近畿農政局消費生活課との意見交換会
- 16日(木) 第4回ビジョン検討委員会
- 16日(木) 若者応援プロジェクト奈良(奈良県立大学フードパントリー開始)
- 21日(火) なら消費者ねっと理事会

### 公示

## 奈良県生活協同組合連合会第32期臨時総会開催について

2021年12月10日

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之  
当会 定款第47条にもとづき、奈良県生活協同組合連合会 第32期臨時総会を下記の通り開催いたします。

記

1. 日時：2022年1月20日(木) 16:30~16:45
2. 会場：市民生活協同組合ならコープ 本部会議室
3. 議案：第1号議案 役員補充選任の件 以上

### ご案内

## ピースかふえⅢ

内 容：長編ドキュメンタリー映画「ヒロシマの誓い～サーロー節子とともに」(82分)

日 時：2022年2月12日(土)  
開始13:00~15:30(開場12:30)

会 場：奈良ロイヤルホテル ロイヤルホール

参加費：無料 要申込(先着順)

主 催：ピースアクションをすすめる会  
奈良県生活協同組合連合会

申し込み：奈良県生活協同組合連合会  
TEL0742-34-3535(月~金:9時から17時)  
Email:kenren@naracoop.or.jp

## 編集後記

たくさんの方々のご協力をいただき「若者応援プロジェクト奈良」で困っている学生達への支援に取り組んでいます。その活動を通じて学生達の大変な状況がわかってきました。大学も学生の支援に取り組まれています。大学もいない場合があります。アンケートから「本当はすごく困っていても困っていないふりをし、友人と買物して後で後悔した」「しんどい時はしんどいと言ってもいいんや」などのアンケートに心が痛みます。コロナで困っている方々はたくさんいるけれど今年も収束して明るい年であってほしいものです。(弘)

「父からご褒美「1いいね1円」という記事があった。「1いいね1円」って何のこと?意味が分からず、読んでいくうちにやっとなわかった。「ヨコエビ」の新種を発見した4歳の息子に、「1いいね1円」でご褒美のことだった。「そうか」…私も相当な化石賞?だと思った。(結果は50万件超だった)(和)

クリスマスカードを東京のひなちゃん、そっちゃんに共有で1通送った。届いたカードを開ける動画が送られてきた。見ると弟が独り占め。ひなちゃん涙。最後は仲良く見ていたが、あまいバアバは再度ひなちゃん宛てに少し大人っぽいカードを送った。アンパンマンはほくの物と思っている様子。「わかちあい」を学んでね。(順)

新しい年を迎えるといつも「今年こそは必ず」と何かを決めては年末に後悔する私。今年も決めないで目の前のことを全力でやってみようと思おう新年です。(佳)